

# 神奈川県 粟津紅花さんが「書道チャレンジ作品展」を開催



会場の様子

1月21日から4日間、クイーンズスタジアム内みなとみらいギャラリーにて「書道チャレンジ作品展」を開催しました。週ること2020年4月、息子紅翔が主宰する国際書道教育協会と私サイレントフットと共に「書道チャレンジ」を立ち上げました。きっかけは、紅花書道塾小学六年の生徒が念願叶って日本代表になり、中国で席上揮毫をする機会をいただきましたが、コロナの影響で中止に。その他にも色々な作品展やコンクールがどんどん中止になり、何とかして皆さんの書の発表の場を設けたいという思いからでした。

具体的には、コロナの収束を願い、「書



菅総理大臣からの祝辞

を書いて想いと共にSNSに掲載して、ボタンを繋げていただきました。「筆を使っての書」に限定すると、書道道具を持つていない方が参加しにくいのでは。ポールペンも可にした方がよいのではという意見もいただきましたが、あえて「筆」にこだわってみることにしました。

そんな心配をよそに、「コロナの収束を願い、書に未来への希望を託す」と題し、仲間からスタートした「書道チャレンジ」の想いは多くの方に届き、文化人、政界、芸能界、スポーツ界など各界の方々にもご参加いただきました。また海外にも届き、5月末までに約二千人の方々に繋がりました。

普段書に携わる方もそうでない方も、自粛期間中に家の中で家族と一緒に、または一人でじっくり、筆を持って書を楽しんでいただけたことを、何より嬉しく思っていました。

そこで、主催者からお礼の気持ちを込めて、私と娘紅扇、息子紅翔の三人で「connect」を書道、スマートフォンズにて揮毫し、繋いでいただいた作品と共にYouTubeで配信しました。その後、横浜市文化観光局主催の映像配信プログラムに選ばれ、改めてみなとみらい象の鼻パークにある「象の鼻テラス」で閉館後、無観客にて書道パ

フォーマンズの映像を撮り、私たちのインタビューも含め、YouTubeで現在も配信いただいています。

横浜の海から世界が繋がったという意味を表現するため、青いキャンパスに丸い地球にみたてた「繋」を揮毫しました。そしてコロナが落ち着いたら、是非会場で「書道チャレンジ作品展」を開催しようと話していましたが、横浜市文化観光局文化芸術応援プログラムに選ばれ、後援をいただき弾みがつきました。

実行委員はコロナ対策もあり、最小限の人数の私達親子二名にして、昨年8月に翌年1月の会場を予約し、諸々の準備をしてきました。



障害福祉サービス事業所「道工房」皆さんの作品



左から紅花さん、紅扇さん、紅翔さん



紅花書道塾学生展

ところが準備が着々と進んでいく中、雲行きが怪しくなり、二回目の緊急事態宣言が発令されて、作品展開催がその期間中にあたってしまいました。皆様にご来場いただけない状況ではいけないし、万ご来場の皆さまに何かあつてはいけません。また、今回私たちの活動に賛同し、「祝辞」をいただいた菅総理や林横浜市長、松尾鎌倉市長らにもご迷惑をおかけすることになってはいけません。相談しました。会場は飲食を伴わない場所であること、大変オープンな場所であり、開催に問題ないので大丈夫と書いていただき、予定通り開催することに決めました。

検温、消毒、マスク、会場内に注意喚

起のパネルはもちろんのこと、入場制限人数を設け、芳名帳には連絡先の電話番号を記入、使用したく筆やペンはその都度消毒、受け付けはビニール手袋等、入念な感染対策を講じました。

この作品展は三部構成にしました。

①書道チャレンジに参加いただいた方々の作品(動画にまとめ会場のモニターで流し、一部各界の方々作品と、象の鼻テラスで揮毫した四メートル四方の作品などを展示しました。書道界の会派の垣根を超えた交流ができたこと、普段筆を持たない方が書に触れ、書の楽しさを味わっていただけたことも今回の大きな成果と思えました。)

②障害を持ちながら社会参加を目指す人たちの作品(私が毎月書の指導に伺っている障害福祉サービス事業所「鎌倉道工房」のメンバーの作品。皆さんへのコロナの影響は本当に大きなものがあり



ユニクロ UT プレゼント抽選 (久木田氏)

ました。心の中の想いを作品で表現し、多くの方に見ていただき、彼らに感想を届けることに意義がありました。

③紅花書道塾学生の作品(コンクールに出品するために練習を積んできたのに、あと一週間で締め切りというところで中止が決定。みんなの作品は必ずどこかで展示するから、最後まで頑張り仕上げようと約束しました。その約束を果たせた作品展でもあり、「書道チャレンジ作品展」は「紅花書道塾学生展併催」としました。会場ではご父兄の涙姿、喜ぶ子供たちの姿を見て、改めて発表の場の大切さを実感しました。)

心配をよそに、連日多くの方にご来場いただき、作品展を開催した意義を実感しました。そして最終日から健康観察の二週間も過ぎ、実行委員一同胸をなでおろしました。

安心して文化芸術に触れ、心豊かになれる場所が今後も生まれ続け、次世代を担う子供たちの発表の場、障害をお持ちの方々の社会参加の場も引き続き設けていきたいと思えます。

書道チャレンジにご参加いただいた多くの方、期間中ご来場いただいた方、運営にご尽力いただいた方、関わってくださった全ての方々に深甚の感謝を申し上げます。

(粟津紅花)